



指導上の工夫

【自分自身との関わりで考えるための工夫】

グループで話し合った後、個人思考の時間を設けることで、考えを整理し、自分とのかかわりを考えながら「本当の自由を大切にしたい生き方」を考えられるようにする。

【多面的・多角的に捉えるための工夫】

グループでジェラル王子の涙の理由を話し合い、ホワイトボードに書いて掲示することで、多様な意見に触れられるようにする。

【主題に迫るための工夫】

登場人物の気持ちの変化を考えることを通して、自由は楽しいイメージのものだけでなく、自分を律して行動することも必要だということに気付かせる

授業者 大西 由夏 教諭

主題名 本当の自由とは  
【善悪の判断、自律、自由と責任】  
小高A(1)

教材 「うばわれた自由」  
『私たちの道徳5・6年』文部科学省

ねらい ジェラル王子の思いを通して「本当の自由」について考え、自律的で責任ある行動をしようとする態度を養う。



ガリユーの注意を聞かない  
ジェラル王子の気持ち

自由  
自分の好きなことが(5人)  
親や先生におおれたい(3人)  
好きなように生活(5人)  
宿題がない(2人)  
ルールを守りたくない(5人)  
いろいろなものが買えること(4人)  
自分(考える)行動(2人)

ジェラル王子 森の番人ガリユー  
まじりを知らない(破) まじりを破れた者(破)

【導入】  
みんなが考える「自由」とは

講師による指導・助言

高知大学 森 有希 准教授

POINT

【模擬授業者の振り返りや参加者協議を踏まえて】

- ・グループ協議での意見の扱い方に迷ってしまう  
→何をおさえるのかが揺れている  
→本当の自由とは何かを考えさせる必要がある
- ・自律についてしっかりと考えさせる機会が欲しい  
→自律について考えさせる問いが必要である

【授業展開の一例】～主体的な学びをつくるために～

例1 事前アンケートの効果的な活用で、児童に問題意識をもたせる展開

- ①児童が考える「自由」とはどのようなものか共有する。
- ②ジェラル王子の言う「自由」について考える。
- ③児童とジェラル王子の「自由」を比較する。
- ④本当の自由ってどのようなものだろう＝問いを生み出す  
▶グループ協議へ

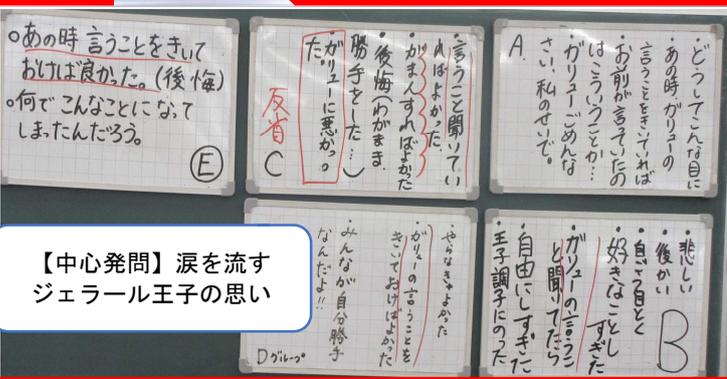
例2 自由と自分勝手の違いについて、教具を工夫して追求する創造的な展開

- ①「自由」と「自分勝手」はどこが違うのか？



→自由に動かせる  
2つの輪の教具  
▶グループ協議へ

- ②これが本当の自由だと思う出来事があるか。  
→経験との関連付け
- ③学習を振り返り自分の生活に生かしていきたいと思ったことは何だろうか。



【中心発問】涙を流す  
ジェラル王子の思い

協議の要点

協議の視点1【自分事として考える手立て】

- 事前アンケート結果を取り上げた導入は効果的である。
- 「本当の自由」とはどのようなものかおさえが弱いと、本当の自由を大切にしたい生き方まで考えが至らないのではないか。

協議の視点2【グループでの効果的な話し合い】

- グループでの話し合いには意図が必要。
- ・多様な意見を聞き合う。意見を深めるなど。
- ・深めさせたいところ(本当の自由)について協議する方がよいのではないか。

協議の視点3【主題に迫るために】

- 自由と責任だけでなく自律について考えさせる機会がほしい。
- 王子について考えるのではなく、王子を題材にしながら「本当の自由」について考えることが大切である。